

星景写真コンテスト入賞作品目録



一席 「牧草地の見る夢」

小野 扶未さん (神奈川県)

まるで名画を見ているような印象です。メモによるとPM2.5が多く透明度はあまりよくなかった由。かえって幻想的な雰囲気醸し出しました。バームクーヘンが並ぶ地上近くには下方通過の北斗七星がかすかな滲みを伴って浮き上がりました。北海道の生活の一面を見せてくれました。

※掲載した作品は、印刷時に作品本来の質が損なわれております。ご了承ください。

※入賞作品は、鳥取さじアストロパーク公式ホームページにも掲載しています。

第24回鳥取市さじアストロパーク星景写真コンテスト

- ☆主 催☆ 鳥取市さじアストロパーク
- ☆協 力☆ 写友会カプリシャス、鳥取天文協会
- ☆協 賛☆ 中央光学、テレスコープセンターアイベル、天文ハウスTOMITA、(株)中井脩、(株)ビクセン、三鷹光器(株)
- ☆後 援☆ AstroArts/月刊星ナビ、(株)さじ式拾壺
- ☆応募結果☆ 113点(56名)
- ☆審 査☆ 委員長/佐治天文台台長・香西洋樹
委員/鳥取市さじアストロパーク副所長、ほか

審査委員長 香西洋樹(佐治天文台長)

佐治天文台は、今年(2018年)で開設以来満24年を迎えます。今年度は、鳥取県が県の愛称を“星取県”と決め、国内に大々的にアピールし、写真も公募いたしました。また、アストロパークが当初から継続して来たこのコンテストも、前回までと同様「星のある風景」をモチーフにした「星景写真」として全国的に募集いたしました。その結果、北海道から四国・九州に渡る全国各地の56人により113点の作品が寄せられました。今回は昨年に比べ応募総数が幾分減少していますが、これは全国的に天候が不順だった事の現れだろうと思われま

す。応募頂いた方々の年齢は、前回と同様に10歳代の若い方から70歳以上の高齢の方までに亘り、特に中年の方々の応募数が増しました。何かと多忙な中年の方々。寸暇を見つけて家族共々で親しむ夜空の星々。今後の活躍が期待されそうです。これは星空、言い換えると人と宇宙についての関心が広がり、そして深まったことを示しているのではないかと考えています。

今回、応募された作品を拝見するとき、作者自身の自然観、さらに人生観などを感じさせられます。若年の人は新鮮な眼差しで、中年の方には勢いを感じ、高齢者は成熟した瞳で見つめ、人と宇宙の関わりを表現しました。また、撮影の場所についても、撮影のための遠征に加え自宅付近、さらに故郷の星空を改めて見上げる姿勢が見られることは大変好ましいことと感じます。評者は、以前から居住地の、言い換えると生活の拠点の星空を大切にしたいものと語り続けてきました。すなわち、都会には都会の、また、田園地帯には豊富な自然の星空があります。つまり、星空は撮影地の環境を示す指標なのです。

入選作品については個々に選評を書くことにいたしますが、全応募作品が作者自身で納得し、厳選された上での応募であることは言うまでもないこと、その事実は作品を審査する過程において如実に感じました。一方、作者の作品に対する強い愛着心から、不要とも思われる部分が残されたり、また星と風景のどちらが主役なのか判り難い作品もあり、これ等がかえって作品の印象を弱める結果を招いている作品もあり残念でした。デジタルカメラとパソコンによる画像処理、さらに高画質プリンターの普及により、天体を含むテーマがより身近になったことは素晴らしいことに違いありません。しかし、あくまでも自然が対象です。目で見て好感が持てる作品が何よりです。行き過ぎた処理には問題が残ります。

応募作品を拝見し、回を重ねるごとに完成度が高まったことを強く感じ、さらにこれまでの応募者に加えて、初応募の方や若い愛好者が増加したことも大きな喜びでした。写真が手軽に撮影でき身近になってきた一方で、天体を含む自然に対して関心が低下してきていると危惧する声も聞かれます。星空と我々人間の関係は、永遠に変わることのない伴侶であります。何時までも皆様と共有していきたいものです。特に最近頻発する自然災害。これも地球誕生以来繰り返されてきた自然現象で、早い復興を心から願い、その被災地の上にも太古からの変わらぬ星空があることを心に留めて置くことも大切なのではないのでしょうか。

最後に、このコンテストを催すにあたり、多くの方々にご協賛・ご後援をいただきました。主催者として、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

二席「天の川と土星」

竹端 榮さん(神奈川県)

直線で斜めに区切られた画面、その縁には土星の強い光、下方には富士山の陰影、上方にはわし座のアルタイルとこと座のベガ。下方には人の暮らしを教える町の明かり。山梨県にある南アルプスの前衛の楕形山からの撮影。黒く区切られている画面が強く印象つけられます。その黒色と星空の対比が力強さを感じさせられ、人家の明かりが人の営みを教えます。



三席 「代掻きの季節」
牛尾 章兵さん(兵庫県)



印象派の絵を彷彿とさせます。薄闇に溜りが道しるべ、その上空には夏の天の川。残光に浮かぶのは遠い山並み。うす暗い地上と斜めに流れる天の川が見事に収められていて晩春の田園風景が目に浮かびます。絶妙な諧調により醸し出された田植え前の状況です。

三席 「星空のワインディングロード」
横山 明日香さん(北海道)



上富良野町での作品です。雪原の上空には横たわったオリオンがプレアデスを追っかけます。追っかける道を暗示するように立つのは道路標識。見る人には皮肉にも感じます。3段になったカラマツの疎林が広さと広がりを感じさせます。



「惑星を見つめて」 木村 洋介さん (宮城県)

特別賞



「ホシノヒカリホテルノヒカリ」
西川 宗史さん (鳥取県)



「ダイヤモンド・エクスプレス」
鈴木 克哉さん (神奈川県)



「冬の入り口」 中村 良次さん（福岡県）



「銀河鉄道の夜」 市川 尊之さん（広島県）

佳作



「夏星の宙（そら）」
長縄 範雄さん（東京都）



「大山の流星」
加川 清三郎さん（鳥取県）



「星降る御岳」
福田 尚人さん（滋賀県）



「阿蘇五岳に立ち昇る夏の天の川」
福田 承平さん（福岡県）



「月光の大山」
徳島 義孝さん（島根県）



「石鎚頂上社と北天」
楠本 毅さん（香川県）

星取県賞



「砂丘の夜」
柴田 康治さん（岡山県）



「月あかりの雪大山」
大島 学さん（岡山県）

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1 TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

<http://blog.zige.jp/saji-astro/> e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp